

# ご挨拶

師走に入り皆様方には何かとお忙しい時期と存じます。寒さも段々増す季節でもあり、お体十分ご自愛下さい。

齋藤弘知事の本格的予算編成による県政が四月から始まっております。やまがた総合発展計画、所謂、「子ども夢未来宣言」を実現するため、県内の「経済力」、「基盤力」、「地域力」を充実、成長させる事により一〇〇年後も誇れる山形を目指しています。私も賛成です。共に力を合わせて参りましょう。

一方、山形県を含む地方自治体はどこも財政事情が厳しくなっており、改革を進めながらの県政運営を、県民の方々より御理解をいただき、知恵を出し合い工夫して行く事が求められているものと感じています。また昨今の国政等の政治情勢を見ても、マスクミが煽り立てるせいもあるのか「丁寧さ」に欠ける事が目につきます。「予算がない」、「金がない」で全てが済まされてしまう風潮ではいけません。残念な事ですが「いじめ」による児童・生徒の自殺なども、あと一つ丁寧に手を打っていけば防げたという事実もあるように見受けられます。

信頼は対話から生まれます。原点に帰る必要があるのではないのでしょうか。そういう意味で日頃から「現場第一主義」を主張している私としては、一層意見交換をしまっている決意です。

どうか皆様におかれましては、今まで以上に大切な情報等ご連絡いただければ幸いです。



# 伊藤重成県政報告 Vol.5

## 県政二期目、平成18年を総括して。



### プロフィール

昭和31年 最上郡舟形町長沢生まれ  
 昭和50年 山形県立新庄北高等学校卒業  
 昭和54年 成蹊大学法学部政治学科卒業  
 平成 8年 近岡理一郎科学技術庁長官大臣秘書官  
 平成11年 山形県議会議員初当選  
 平成12年 自民党県連青年局長  
 平成14年 建設常任委員会委員長・議会運営委員  
 平成15年 山形県議会議員2期目当選  
 総務常任委員会委員長  
 平成17年 広報委員会委員長・定数検討委員会委員  
 平成18年 建設常任委員・議会運営委員・広報委員会委員長

### 安倍晋三氏内閣総理大臣就任を祝う会

11月22日母校成蹊学園主催の「安倍晋三氏内閣総理大臣就任を祝う会」が開催されました。総理は同じ法学部政治学科で私の2年先輩になります。当日は予想を上回る約1,500人の同窓生が集まり、大いに盛り上がりました。司会はこれまた同窓のフジテレビ高嶋彩女子アナで、終始笑顔で会場をリードし、結びは大学のチャイナリーダーのダンス、そして応援団と会場の子どもの校歌斉唱でピシッと決まりました。復党問題等多難な課題はありますが、著書の美しい国への中でつねに「闘う政治家」でありたいと語っておられます。大学関係者、否、日本国民が安倍総理のリーダーシップを期待しております。山形へ帰ってきた今でも会場の熱気が脳裏から離れません。平成18年11月



### 尾花沢新庄道路開通

11月19日に待望の国道13号高規格道「尾花沢新庄道路、野黒沢～川原子間6.1キロ」が開通しました。県内の高速道は細切れ状態でその利便性が発揮できないでいます。先日、私も含めた県議会では、

青森、秋田、福島県の各議会と共に上京し、関係役所に要望に行っていました。とにもかくにも事業が途切れることなく展開するように情報発信、行動していかなければなりません。



加藤代議士と共に

### 広報委員会、議会へ中間報告

昨年、議長のもとに広報委員会が設立され、その委員長に任命されました。これまで7回の委員会が開催され、議会の活動が正しく県民の皆様にご理解いただいているのかという視点に立ち、新たに再構築しなければならないというスタンスで協議を重ねてきたところです。

報告の内容は、  
 ①「議会だより」を山形県内の各世帯、約37万戸



左から 佐貝前副議長、今井県議会議長、広報委員長の私、海鋒副委員長

に等しく配布する。(6月より配布されております。)  
 ②IT関連機器の普及に合わせ、議会中継をインターネットにて映像配信を行う。  
 ③テレビ・ラジオ等のマスメディアを有効に活用することにより議会を身近に感じていただく。等となっています。また、県のホームページもリニューアルされましたので、議会においても、直ぐにできるものと、時間をかけて精査するものとに分けて、走りながら構築して参りたいと存じます。平成18年3月 (<http://www.pref.yamagata.jp/assembly/>)

### 女性のための政策提言塾

今回、2回目の塾に私たち4人の県議会議員が参加いたしました。山形市内でご活躍なされているグループを含め、4つの会の方々がそれぞれご活動の内容や問題点をお話し下さった後、意見交換がなされました。活動を行っているはずと云っていいほど「壁」に当たります。予算的なこと、人的なことetc.ひとつ、ひとつ丁寧に乗り越えていくことですが、政治の側からの応援も必要なのが事実です。平成18年3月

